

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（2月28日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。^{か ごしまけんりつあま}鹿児島県立奄
^{み としよかん}美図書館です。

今朝は，^{あまみとしよかん}奄美図書館の3月の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

1冊目は，日本初の豪華クルーズトレイン「ななつ星 i n 九州」のデザインを手がけた
^{み とおかえいじ}水戸岡鋭治さんの『あと1%だけ，やってみよう』です。この本は，水戸岡さんが，「な
なつ星」に至るまで，何を考え，どんなアプローチをし，技術者や職人をはじめとする周
囲の人々とどんな仕事をしてきたかを軸に，私的デザイン論としてまとめられたものです。
二十年前に初めて手がけた特急「つばめ」で鉄道デザインの基礎を学び，列車をつくるプ
ロはいるけれど，旅の楽しさをつくるプロはいない。ということを実感したそうです。ま
た，列車だけでなく，観光地などの街づくりにも関わっています。「観光とは，光のある
場所を観に行くこと」と定義し，何か特別なことをするのではなく，まず「整理」「整頓」
「清掃」「清潔」^{しつけ}「躄」を心がけることが大事だとしています。魅力ある街づくりはそこ
から始まるのです。

水戸岡さんの仕事の哲学が詰まった本です。ぜひ，手にとってみてください。

2冊目は、『サラダ記念日』で有名な歌人，^{たわら}俵 ^{まち}万智さんの新しい歌集^{かしゅう}『オレがマリ
オ』です。俵さんは東日本大震災の時，仙台に息子さんと住んでいましたが，余震と原発
事故が落ち着くまでと思い，西へと向かいました。そして，縁あって今は，沖縄の石垣島
に住んでいます。豊かな自然のなかで遊んでいる息子さんをみて，『私は何かを失ったの
ではない。大切な場所を一つ増やしたのだ』と言っています。それが最もよく表れている
歌で『「オレがマリオなんだよ」島に来て子はゲーム機に触れなくなりぬ』というのがあ
ります。滝壺で泳いだり，さとうきび畑で鬼ごっこしたりと，冒険に満ちた日々を楽しん
でいる息子さんの言葉が，島の暮らしを象徴しているようです。震災前と震災後から現在
までの日々の暮らしの様子など341首を集めた心温まる歌集になっています。

次に，児童書をご案内しましょう。

1冊目は，^{さ こもみ}佐古百美さんの『さようならようちえん』です。こばと幼稚園に通う年長組
のななちゃんとお友達との関わりを通してクラスメートの紹介をしながら卒園までの日

日が描かれています。ピカピカどろだんごを上手に作る男の子や、水が苦手でなかなかプールに入れない女の子。七夕のお祭りや、お芋掘り。幼稚園生活での先生とのやりとりや、雪の降った日の出来事などから、子どもたちの成長していく様子がうかがえます。

もうすぐ3月。卒園の季節です。ぜひ、子どもさんと一緒に読んでみてください。

2冊めは、スーザン・L・ロスさんの『マングローブの木』です。^{こうかい}紅海に面したアフリカの小さな国にまずしい村がありました。十分な食料が手に入らず、人々はいつもお腹をすかせていたのです。そんなところへひとりの科学者が訪れて、村人たちの生活が楽になるよう手をさしのべました。全ての始まりは、海辺に植えられたマングローブの木でした。

この本は、詩と散文で交互に語りながら、博士の「マングローブ植樹プロジェクト」がまずしい村をどのように自足できるコミュニティーに変えていったかを案内しています。

最後は郷土に関する本のご案内です。

NPO法人徳之島虹の会編著の『いのちつながる徳之島』です。奄美・琉球世界自然遺産の登録に向けて取り組んでいる今、徳之島の誕生から、国の特別天然記念物に指定されているアマミノクロウサギをはじめ、森や海など、多くの自然に生活する動植物が写真で紹介されています。徳之島のことをよりよく知るための1冊です。

さて、図書館からのお願いです。

最近、本の返却の際に汚れているページがあるものがいくつか見受けられます。

大切な県民の財産ですので、誰もが気持ちよく利用していただくためにも、本の取扱いには気をつけてくださるようお願いいたします。

慌ただしい時期になりましたが、読書で気分転換をしてみたいでしょうか。

^{かごしまけんりつあまみとしよかん}
鹿児島県立奄美図書館でした。